

**<このマニュアルの読み方>**  
 このマニュアルではすべてのテーマにおいて同じ様式で編集しています。まず最初にページのどこに何が書いてあるのかを理解して読み進めてください。

章ごとのテーマを書いています。  
 1 テーマにつき見開き 1 枚で編集してあります。

マニュアルの内容を保育士さん達に共有させるためのポイントです。

## 園児のケガ・病気

### Riskmanagement Manual

#### 事前準備

Preparation

##### 病院の選定は事前に！

園児がケガや病気になったときの病院は、保護者が指定する所か、園医かは事前に確認をとっておきましょう。

##### 119番との連携確認

救命訓練を事前に受けておくことは大切ですが、その際に119番通報の練習もしておきましょう。事前に何を聞かれて、どのように応えれば良いかを把握しておけばいざというときに、パニックにならずに済みます。

##### ルールは事前に確認

園児がケガや病気を目の前で発症したときには、慌ててしまいます。そのときに、園内連携が乱れないように園内で事前にルールを作っておきましょう。  
 例) 病院に連れて行く人は…  
 保護者に連絡する人は…  
 対応の記録をとる人は…

#### 応急処置

Emergency

##### クスリアレルギーに注意！

すり傷や切り傷にクスリを塗るときは、アレルギーに注意します。できれば、2人以上の保育士が対応し、ダブルチェックしましょう。

##### 救命処置は119に確認！

救命処置が必要と判断した場合は必ず119番通報を先に行い、救急隊の指示にしたがい心臓マッサージ等の処置を行ってください。その際に、処置を行った時刻や処置の内容、園児の反応等は、記録に残します。

##### 首から上のケガは問答無用！

園児が首から上の部位をケガしたときには、迷わず病院を受診しましょう。目や歯のケガは、後遺障害が残る可能性もあり、保護者ともめる可能性も高いからです。

#### 事後対応

Strategy

##### 保護者への謝罪は早めに！

園や保育士にとっても、言い訳したいようなケガもあると思います。しかし、ケガ後の保護者とのファーストコンタクトは、謝罪に徹しましょう。

##### 説明はていねいに！

ケガをしたときの状況説明はなかなか難しいものです。そういうときは、ケガをした経緯を文章にまとめたものや、現場の位置関係を書いた図などを使用すると相手にもわかりやすく伝わります。これも誠意を伝えるノウハウのひとつです。

##### 記録は正確に！

事故時の記録は正確にとりましょう。できれば園で専門の様式を使うと良いでしょう。記録のポイントは、主語を書く。感想を書かない。事実だけを正確に書く。この3点です。

### 園児のケガや病気は医者診断を受ける事を原則とする！

#### 園内への導入ポイント

- ①園児の体の特性（アレルギーなど）と保護者のニーズ（連れて行って欲しい病院）は事前に把握する。
- ②園の方針は事前に保護者へ説明する。
  - ・病院に連れて行くケガの程度
  - ・お迎えにきてもらう基準
  - ・救急車を呼ぶ基準 etc.
- ③ケガへの対応は事前に練習しておく。
  - ・119番通報
  - ・心臓マッサージなど
  - ・ダブルチェックの方法
  - ・園外保育時などの連携方法 etc.
- ④事故時の対応は園内統一基準
  - ・記録は個人差が出ないように記録用紙を作成
  - ・記録用紙への記入は事前に練習しておく
  - ・保護者への説明方法、苦情の受付や処理方法なども園内で決めておく。

事故の前にする準備を書いています。時間の流れをイメージして読んでください

事故が起きたときに特に注意しなければならないことを書いています。

事故が起きた後の対応について書いています。優先順位を意識して読んでください。

各テーマにおける大原則を書いています。ここに書いてあることが最優先されます。